

## 令和元年度 島田樟誠高等学校 学校評価（自己評価）

### 教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

### 教育方針

- 1 学校生活における目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育て学力を向上させる。
- 3 思いやりの心を育て社会性を身に付けさせる。
- 4 進路意識を高め進路目標を達成させる。

令和2年3月6日(金)に実施予定だった学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染拡大予防により中止したため、自己評価のみ。

### 令和元年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題
教育課題の解決に積極的に取り組む。	目指す学校像を共有し課題に関する共通理解を深め、その解決のための方策を研究し実行する。	B	「知識・技能を身につける」、「新しい自分を発見する」、「人間性を高める」、という具体目標に基づいて部署において検討を行い、実施した。 令和2年度入試においては、受検生の急減期にも拘らず前年度比で受検者が17人の増となり、3年連続で受検者数が増加した。本校の教育活動が地域の中学生や保護者に理解されてきたものと判断される。 しかし本年度の転退学者数は、前年比で6名増（3/4現在）になっており、生徒への一層のきめ細かな指導が課題である。
	キャリア探究コース、進学探究コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路の実現を目指して教育課程を実施する。	B	3コースごとの検討委員会で各コースの特色等の問題点への対応について検討を進めた。また、新教育課程検討委員会を設置して、令和4年度入学生から実施される新教育課程についても、検討を開始した。
	部活動等に真剣に取り組むことを通じて心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	B	本年度は66%の生徒が部活動に所属し積極的に活動している。 公式戦（高校総体、新人戦、選手権等）では、ソフトテニス部、バレーボール部、卓球部が東海大会、ソフトテニス部、卓球部、バレーボール部、陸上競技部、柔道部、バドミントン部、水泳部が県大会に出場した。また、スピードスケートで女子生徒が、高校総体、国民体育大会に出場しマスコミに大きく取り上げられた。
	男女共学校としての特性を活かす教育活動を研究し推進する。	B	学習指導、生徒指導、部活動等の教育活動において共学校としてのスタイルが定着してきた。 女子生徒が増える中で、将来を予測しながら女子生徒が参加できる部活動をさらに検討していく必要がある。 例年通り、毎月1回（年12回）、FM島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒5人（男子2名、女子3名）が出演し、本校をPRした。また「島田市女性議会」、「志太ビジネスハイスクール」、「高校生による地方創生研究発表会」等に積極的に参加し、意見を発表した。

目標意識を育てる。	学校生活の各分野における具体的な目標を持たせる。	B	日頃の教育活動の中で、目標を持つことの大切さを指導している。 例えば全学年で週1時間実施している「夢実現プロジェクト」で、早期からの進路指導を行っており、その結果、進路目標を持って学校生活を送る生徒が増えてきた。
	目標達成の手掛かりとして各種の資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	A	授業や夏季講座において漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、表計算、文書デザイン、パワーポイント、ビジネス基礎、ビジネスコミュニケーション、フォークリフト、救急救命、危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。特に本年度は、英語検定、漢字検定で準1級の合格者が出ており、他生徒の刺激となった。
学習指導を充実する。	校内外の研修に積極的に取り組み、学習指導を研究し授業の質の向上を目指す。	B	県私学協会、県教育委員会、ベネッセコーポレーションやリクルート主催の研修会に主として中堅や若手職員を積極的に派遣した。
	チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる。	C	授業については更に改善の余地がある。授業中には一部に集中力を欠いている生徒も見られ、授業への集中した取り組みの徹底が望まれる。
	分かりやすい授業による基礎学力の習得と、進路に応じた発展的な学習指導の徹底により、個に応じた学力を向上させる。	B	6月に中学校の教員や保護者を対象に、公開授業を実施した。 年8回の全校漢字テストとマナトレ（数学の学び直し）は例年同様実施した。またベネッセコーポレーションの基礎力診断テストをキャリア探究コース、進学探究コースの1、2年生、総合コース3年生で実施した。また特別進学コースでは、ベネッセコーポレーションの進研模試、河合塾の全統模試を実施した（他コースは希望者が受験）。今後、これらの取り組みを通して「知識・技能を身につける」ことを徹底し、さらなる学力の向上、判断力の向上につなげたい。 また、生徒全員に各科目のシラバスを配布し、授業の目標や計画、評価方法等を明確化した。
	読書の習慣を身に付けさせる。	B	毎朝10分間の朝読書は定着しており読書習慣が身に付いている。しかし一部に集中力に欠ける生徒も見られ指導の徹底が求められる。
	コミュニケーション能力を育てる。	B	本校には、コミュニケーションを苦手とする生徒が多い。そこで3年生の就職希望者に対して本校職員による面接練習を重ねた後、島田商工会議所青年部による模擬面接（8月24日）、本校理事、評議員、保護者による模擬面接（8月31日）を実施した。面接練習だけでなく入学時からの日常生活の中でコミュニケーション能力を高めていく効果的な育成方法を模索している。
生活指導を徹底する。		C	意識の向上は見られるが徹底したとはいえず、生活指導を受けた件数が前年比で6件増（3/4現在）となっており一層の指導が必要である。自転車のイエローカードについては、定期的な街頭指導や事後指導を行っているが、違反件数が多く、更にきめ細かい取り組みが求められている。来年度の交通安全モデル校の指定を受け、根本的な交通安全対策に取り組んでいきたい。また、男女交際のトラブル等もみられ、敏

			速な対応が求められる。 全校をあげて高校生活の基本となる「人間性を高める」課題に取り組んでいく必要がある。
	自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。	B	運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をしており、地域からも評価されている。
	規則正しい生活習慣を確立し、遅刻、欠席をしないよう指導する。	C	毎朝、正門、西門、生徒昇降口で管理職、学年主任、生徒指導主事、担任が登校指導を行い、またクラス担任が遅刻、欠席が多い生徒には家庭と連絡を取りながらきめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8時25分登校を奨励している。年間を通じて欠席、遅刻ともに微増傾向にあり、指導を徹底したい。
	服装、頭髪、交通安全等の指導を徹底する。	B	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課が主催して全校一斉頭髪服装(眉・ピアス)検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることに因り、服装、頭髪等に関しては良好な状態にある。
進路指導を充実する。	組織的、計画的な進路指導体制を確立し早期に卒業後の進路目標を立てさせる。	B	「進路のしおり」に基づいて1年次からの計画的なプログラムを作った。また、全学年で「夢実現プロジェクト」の時間を使って組織的な進路指導を目指しており、生徒自らが「新しい自分を発見する」ように導きたい。 チューター制による面接指導等の進路指導を全教員で実施し、生徒からは好評であった。 来年度は、女子の卒業生が出るので、進学指導、就職指導とともに早期から、きめ細かい指導を行っていききたい。
	進路意識を高め、目指す進路目標の実現に向けて指導を強化する。	A	進路決定状況は、3月4日現在で4大進学40人、4大進学準備中3人、短大進学3人、専門学校等42人、専門学校進学準備中1名、就職106人、就職未定2人となった。就職については女子の求人先をも想定しながら求人企業の拡大を目指し、進学指導については、各大学、短大、専門学校の特色、入試制度や入試の内容などの理解を目指して指導していきたい。 なお本年度、特別進学コースでは、8割の生徒が国公立大学に合格しており、この結果を在校生の進路意識を高めるよう生かしていきたい。
	進路指導に関する資料の充実と整備を図る。	B	進路閲覧室に進学用、就職用資料が整備されており生徒、職員が随時利用している。今後は受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を蓄積し、個別の大学や企業の試験内容の分析を深めていきたい。
安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	B	保健委員会の生徒が「保健便り」を発行(年間8~9号)し、健康に対する啓発を行っている。また、時期ごとの流行性疾患については養護教諭を中心に、手の消毒液の全クラス配置をはじめとした早めの対応をしている。本年度は、1月にインフルエンザが流行し1年生3クラスを学級閉鎖したが、他学年への感染拡大を防止することができた。
	健康について関心を高め、日常の健康管理が実践できるよう指導する。	B	インフルエンザ、感染性胃腸炎等の流行が予想される時期には、一定期間継続して朝のSHR時に全校一斉で健康観察を行い、全校的な取組を迅速に実施できるようにした。

	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	C	6月の防災訓練では、平常の授業時に抜き打ちで避難訓練を実施し、実際の災害時に備えた。10月は天候の関係で通常の防災訓練ができず、朝のSHR時にクラスで実施した。発災時に生徒がいる場所からの避難経路を選択できるように、毎年条件を変えて訓練を実施していきたい。
--	-------------------------------------	---	--

A～Dの評価については次のように規定する。

A 十分に達成できた。 B おおむね達成できた。 C やや不十分な面が見られた。 D 不十分であった。